●民俗資料情報

柱松・川施餓鬼

季節はずれではありますが、今回は調査情報の中から、盆行事のいく例かを紹介します。

大分川流域には様々な盆行事が存在しています。資料館周辺では、大分市賀来や挾間町同尻・向原などで、その姿を確認することができます。盆の期間中には様々な儀礼が行われますが、中でも人目を引くのは盆に迎えた先祖霊を送り出す川施餓鬼と呼ばれる儀礼で、同尻・向原は16日、賀来では24日に行われます。霊を送る船を麦藁で作り、宵の口頃、川に流す儀礼で、向原・同尻では柱松、賀来では万灯篭と呼ばれる送り火を伴うのが特徴的です。

盆は、仏教的行事として多くの人に認識されています。しかし、その強い仏教色の下には、日本人の独自な信仰をあらわす部分も認められます。つまり霊を迎え、祭りを行い、また送り返すという儀礼の形態は、他の神祭にも共通して見られるものなのです。柱松、川施餓鬼などの様々な盆行事にも、そんな信仰の形式を読み取ることができます。柱松は迎えまたは送り盆に巨大な松明を灯す行事ですが、これは神祭において、神霊に対し祭場の表示を行う儀礼と同じ意味をもつものといえます。また、送り盆に先祖霊を送る川施餓鬼も、祭り終わった神霊を速やかに水辺などに象徴される他界へお返しする神祭の形式と同じともいえるのです。

川施餓鬼の舟と人形（賀来）

川施餓鬼で舟をながす（挾間町）

たいまつを投げ火をともす柱松（挾間町）

●編集後記

ニュースの発行が、少々、遅れて、しまいました。そうこうしているうちに、10周年特別展が、唸りを、上げて、迫って、まいりました。夕暮れ時を、夜にならないうちに自転車でひた走る、そんな気分で過ごす、なまあたたかい異常気象の秋。虫の声は聞こえません。

資料館ニュース　No.40
発行　1997.11.30
大分市歴史資料館
大分市大字国分960番地の1
〒870 ☎（0975）49－0880

大分市
歴史資料館ニュース
OITA CITY MUSEUM NEWS

正保城絵図「豊後府内城之絵図」（複製品・当館蔵）

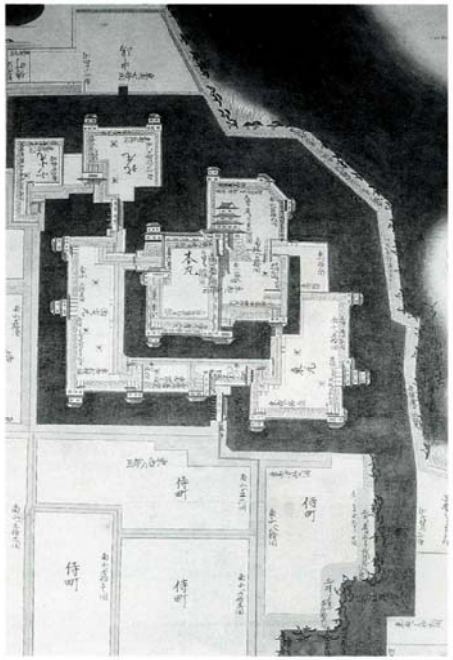
40
1997.11.30

◎表紙紹介

正保城絵図「豊後府内城之絵図」（複製品）

本資料は、江戸幕府が正保元年（1644）に諸大名に命じて提出させた「正保城絵図」といわれる城絵図の一つで、豊後府内藩主の日根野吉明が調進した「豊後府内城之絵図」の複製品（模写）です。現在、その原本は国立公文書館内閣文庫に所蔵されており、同図をはじめとする内閣文庫所蔵の「正保城絵図」63点全てが国の重要文化財に指定されています。

「正保城絵図」の作製のため、新たに城下の実測を行った藩や、提出した絵図に不備があり、再提出を求められている藩もあったなど、その作製には幕府の統一的な指導があったといわれています。また、絵図の清書にあたっては、そのほとんどを幕府御用の狩野派の絵師が行ったともいわれています。こうして完成された「正保城絵図」は、内容の精度や描写の点において、最高級の城絵図とされており、事実、「豊後府内城之絵図」についても、記入された情報量の多さ、詳細な城郭描写などから、同様のことが指摘できます。また、こんにち伝わる府内城の絵図の中では、最大（273×255cm）、かつ最古のものでもあり、同城の歴史を理解する上で避けては通れない資料です。



「豊後府内城之絵図」（部分）

現在の大分市街地の航空写真（白線は総構堀、中堀の位置）

明治40年代の府内城（大手口）　『大分県写真帖』より

◎資料紹介

元 重 文 書

昨年度資料館で収集した一通の中世文書について紹介してみたいと思います。本文書は、大友22代義統が元重兵部丞に対して主従の証として自らの一字「統」を与えた内容のものです。古文書学的にいえば、一字宛行状、または一字書出とよばれているものです。義統から偏諱を賜った兵部丞は、こののち「統資」と名乗ることになったことがこの史料から分かります。

ところで、この元重兵部丞とは、どういった人物だったのでしょうか。『大分県史料』8巻・25巻におさめられた「元重文書」によれば、同氏は豊前国宇佐郡横山浦（庄）元重名を本貫とした土豪で、一族で兵部丞の官途を名乗った人物として、①鎮続、②鎮頼、③次郎の三人の名前が検出できます。②の鎮頼は、元重隠岐守鎮清の子で、同氏の惣領の地位にあり、天正6年（1578）11月の高城・耳川合戦において戦死しています。①の鎮続は、年代は分かりませんが、9月23日付けで、大友義鎮から一字を賜っています。同日付で鎮頼の父鎮清も一字を宛行われていることから、恐らく彼と同時代の人物と考えられます。③の次郎は、大友家の重臣で、豊前国妙見岳城督の田原紹忍（親賢）から兵部丞の官途を与えられています。親賢が入道名である紹忍の名を用いるのは天正4年以降のこととといわれており、②の鎮頼が天正6年10月1日まで兵部丞を名乗っていることから、次郎が兵部丞の官途を得るのも、これ以降のことと考えられます。本文書は、義統の花押の形態から天正9年10月～同10年4月の間に出されたものとみられ、また上記内容から、宛名の兵部丞統資は、③の次郎のことと考えられます。

元重文書、全54点のうち、本紙がなく包紙のみのものが1点（表の26番）だけあり、その上書きには「元重兵部丞殿　義統」と書かれています。本文書は、恐らくその失われた本紙と思われ、元重氏の新たな研究素材として注目されます。

元重文書一覧

	文書名	発給者	宛所	年月日	史料番号	備考
1	足利直冬下文写	足利直冬	元重六郎左衛門尉殿	貞和5（1349）年12月13日	元重家文書1	
2	大内政弘官途書出写	大内政弘	元重次郎左衛門尉	5月21日	〃 2	式部少輔
3	龍崎降輔感状写	龍崎降輔	元重士佐守	3月20日	〃 3	
4	元重清親譲状	元重六郎左衛門尉殿	元重次郎左衛門尉殿	文明元（1469）年12月13日	〃 4	
5	大内義興一字安堵状写	大内義興	弥富孫十郎	文亀3（1503）年6月13日	〃 5	
6	大友親治一字安堵状写	大友親治	元重隠岐守	9月4日	〃 6	義又大炊助繁弘
7	某所坪付	貞房	元重士佐守	永正5（1508）年6月26日	〃 7	
8	方便法身尊像裏書写	願主釈浄悦		永正7（1510）年9月8日	〃 8	
9	宇佐郡高村末久名取帳	一松宗宣才重秋	元重宮内丞	天文5（1540）年9月12日	〃 9	
10	大内義隆受領挙状	大内義隆	元重次郎左衛門尉	天文7（1540）年3月11日	〃 10	隠岐守
11	宇佐郡石山郷郷内屋敷公方書状	公円	元重隠岐守	9月20日	〃 11	親又土佐守
12	大内義長書状写	大内義長	元重六郎左衛門	天正15（1587）年12月3日	〃 12	
13	佐衛門大夫某受領挙状写	左衛門大夫	元重次郎左衛門	3月13日	〃 13	越中守
14	大内義鎮一字書出	大友義鎮	元重兵部丞	9月23日	〃 14	鎮続
15	大友義鎮書状案	大友義鎮	年寄中	10月13日	〃 15	
16	元重鎮清譲状写	元重隠岐守鎮清	元重兵部丞鎮頼	永禄10（1567）年2月9日	〃 16	
17	元重鎮清書状	大友宗麟	元重兵部丞	永禄10　2月9日	〃 17	
18	元重鎮清譲状	元重兵部丞鎮清	元重兵部丞鎮頼	永禄10　2月9日	〃 18	子兵部丞鎮頼
19	大友宗麟知行預ケ状写	大友宗麟	元重隠岐守	3月2日	〃 19	
20	元重鎮頼置文	元重兵部丞鎮頼	元重子孫中	天正2（1574）年8月25日	〃 20	
21	田原紹忍感状	田原紹忍	元重隠岐守	3月18日	〃 21	息兵部丞戦死
22	大友義統感状案	大友義統	豊前国衆中	4月21日	〃 22	
23	元重鎮頼置文	元重兵部丞鎮頼	女子菊上	天正6（1578）年10月1日	〃 23	
24	田原紹忍感状	田原紹忍	元重兵部丞	12月2日	〃 24	
25	（元重）鎮弘書状	鎮弘	元重兵部丞	9月11日	〃 25	
26	大友義統書状（包紙のみ）	大友義統	元重兵部丞		〃 26	
27	田原紹忍感状	田原紹忍	元重兵部丞	12月24日	〃 27	
28	田原紹忍官途書出	田原紹忍	元重次郎	10月16日	〃 28	兵部丞
29	大友義統書状写	大友義統	元重隠岐守	8月1日	〃 29	
30	田原紹忍感状	田原紹忍	元重兵部丞	3月21日	〃 30	
31	大内義隆官途挙状	大内義隆	元重右衛門尉	天文11（1542）年3月9日	元重信文書1	右衛門尉
32	大内奉行人連署奉書	貫隆仲・杉重矩	元重次郎左衛門尉	12月22日	〃 2	
33	田原親宏書状	田原親宏	元重隠岐守	4月14日	〃 3	
34	大内奉行人連署奉書	貫隆仲・杉重矩	元重次郎左衛門尉	9月21日	〃 4	
35	大友義鎮一字書出	大友義鎮	元重隠岐守	9月23日	〃 5	鎮清
36	田原親賢書状	田原親賢	元重隠岐守	5月27日	〃 6	
37	田原紹忍受領書出	田原紹忍	元重越中守	10月27日	〃 7	安芸守
38	田原親盛安堵状	田原親盛	元重安芸守	1月10日	〃 8	
39	田原紹忍感状	田原紹忍	元重隠岐守	（天正8年）　1月23日	〃 9	同名親賢誤歟
40	大友義統一字書出	大友義統	元重安芸守	11月27日	〃 10	統清
41	田原紹忍感状	田原紹忍	元重安芸守	11月22日	〃 11	
42	大友義統感状	大友義統	元重安芸守	11月15日	〃 12	
43	大友義統感状	大友義統	元重安芸守	8月30日	〃 13	
44	田原紹忍感状	田原紹忍	元重安芸守	12月2日	〃 14	
45	田原紹忍売行状	田原紹忍	神珍	12月25日	〃 15	
46	田原親盛安堵状	田原親盛	元重三郎	1月15日	〃 16	
47	田原親盛感状	田原親盛	元重甚介	12月22日	〃 17	
48	田原紹忍感状	田原紹忍	元重安芸守	2月20日	〃 18	
49	田原親盛感状	田原親盛	元重安芸守	12月22日	〃 19	
50	大友義統感状	大友義統	元重隠岐守	4月21日	〃 20	
51	かちや清永譲状	かちや民部丞清永	元重三郎	弘治3（1557）年12月24日	元重小藤文書1	
52	国東郡摩文名写			天正15（1587）年10月1日	〃 2	
53	諸弘申状案			（天正7年）　2月18日	元重家子文書1	子兵部丞
54	大友義統書状写	大友義統	元重隠岐守	8月28日	元重角一文書1	

（『大分県史料』8、35巻より作成）

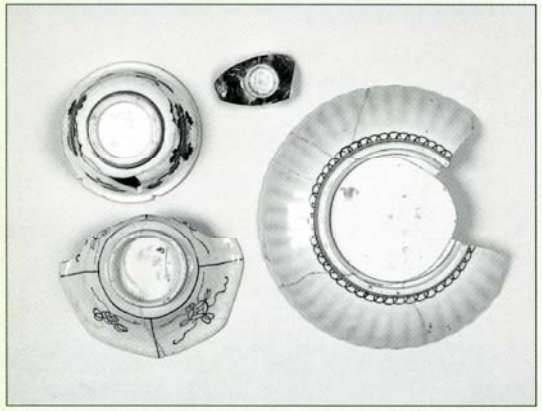
テーマ展示Ⅱ

城下町を掘る

本年度の第２回目のテーマ展示「城下町を掘る」を、７月５日～９月28日の期間、開催しました。県の共同庁舎建設にともなって1991年初めての発掘調査が行われたのを機に、社屋・庁舎の建設や公園整備に関わって、これまでに８か所で豊後府内城下の発掘調査が行われました。本展では、県の文化課や大分市の文化財室が中心となって行ったこれらの調査成果の中から、府内城下やそこに住む人々の暮らしの有様を出土遺物や遺構を通して紹介してみました。

若草公園発掘状況

府内城下の西町・西上市町・清忠寺町・鍛冶屋町に比定される若草公園内の発掘調査では、城下町建設当時の基盤整備の跡や、道路、町屋、井戸など、往事をしのばせる数多くの遺構が検出されている。



焼継磁器（若草公園出土）

鉛ガラスを使って低温で焼き継ぎ補修された磁器。磁器の底には、補修の際にモノの所有を明らかにするために記入したとみられる町名・人名等が朱書きされている。絵図や記録にみえる府内城下の町名を裏付ける資料として注目される。

鋳造関係遺物（若草公園出土）

溶けた鉄や銅を鋳型に流し込む際に用いる容器＝取鍋（ひしゃく）等の鋳造関係の遺物。若草公園内の町屋跡から大量に出土したもので、鋳物師または鍛冶屋の住居跡かとみられる。

府内城下町調査地点

❶三之丸遺跡（県共同庁舎）
1991年大分県文化課

❷三之丸遺跡（平成の塔）
1993年大分県文化課

❸三之丸遺跡（合同新聞社）
1993年大分市文化財室

❹若竹公園（府内アクアパーク）
1993年大分市文化財室

❺三之丸北口門跡（中央警察署）
1994年大分県文化課

❻ジャングル公園（寺町・塗師町）
1995年大分市文化財室

❼西之丸廊下橋口・本丸北大櫓門口
1995年大分市文化財室

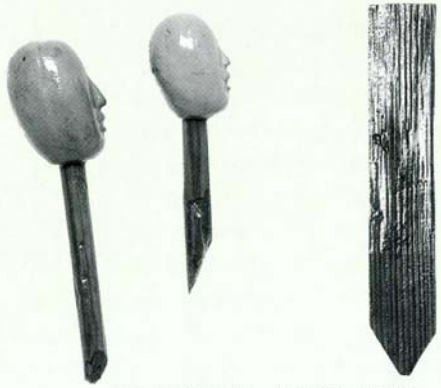
❽若竹公園（西上市町・西町）
1996・97年大分市文化財室

府内城下町概略図

（写真資料の一部は市の文化財室から提供いただいた。）

道路遺構（若草公園出土）

若草公園の調査でみつかった道路遺構。城下町の基盤整地面を幅６m以上にわたって掘り下げ、砂・土・粘土を交互に敷き詰めて整備されている。その層の高さは約１mに及び、大規模な土木工事をともなった城下町建設であったことがうかがえる。



井戸内祭祀遺物（若草公園出土）

若草公園内の多数の井戸跡のひとつからみつかった人形（２体）と斎串（いぐし）。それらは井戸底に置かれた木箱の中に納められ、箱の上には節を抜いた竹が立てられていた。井戸をつぶす際に、水神の祟りを防ぐために息抜きの竹を立てたり、人形を埋めるという民俗事例が聞かれ、同様の儀礼に関わる遺物とみられる。

展示資料から見た大分の歴史 第18回

高崎城と市内の山城(3) 金谷迫丸山城

今回は、資料館が1994年２月に、縄張調査を行なった金谷迫丸山城を紹介しましょう。

丸山城は、現在金谷迫で“城山”と俗称されている小高い部分にのみ城としての遺構が認められます。賀来井手ノ上から入り込んできた深い谷が東から南に廻り込み西側を字土井ノ内の谷頭に至っています。つまり、東南西側が深い谷に囲まれている事になります。この谷に面した斜面には戦国時代山城に良く設けられている、竪堀や、帯曲輪のような遺構は確認されていません。北側は両側から谷が迫り鞍部をなして北側の丘陵に続いています。

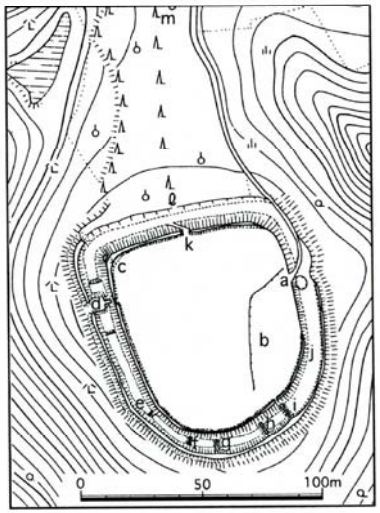
城は、主郭だけの単郭構造をもっており、周囲に堀と土塁を廻らせています。平面形は地形の高まりにしたがって円又は楕円に近い形で堀を廻らしていますが、人から良く見える面である北側は、直線的で西と東の隅は角をもっています。これは、前回高崎城でも述べたように、人に見える部分だけを方形館を意識して築造した結果と思われます。以上の様に、主郭は南北約80m、東西約70mで、平面形は南が丸く、北側は直線的で方形館の一辺を示しています。主郭の周囲には土塁の痕跡が認められますが西側を除きあまり明確ではありません。

現在、主郭内には三か所（図のa,d,k）の入口がありますが、当時の入口（虎口）は確定されていません。図のaは、東側から斜めに登り、郭内に入った部分は郭内の他の部分より低くなっていて（図b）、勢溜（武士が出撃にそなえて留まる所）とも推定出来ることから一番有力視されています。

郭を取り囲む堀は当初は全周していたと思われますが、現在は北側および東側の一部はその痕跡を留めているにすぎません。堀は郭より一段下がった位置を掘り下げているため、掘上げた土は堀の外に石混じりの土塁として積んでいます。この城の堀には他と変わった特徴があります。堀の内部に畝状に土橋が何本か作られています（図d,e,f,g,h,i)。普通この様な堀を“畝状堀”と呼びますが、九州には例がありません。地元に人に聞きますと、以前は松林で、山麓で伐採した木を一旦主郭の平坦面に引き揚げてから搬出していたという事ですので、そのための土橋である可能性もあり、畝状堀と断定はできません。

さて、この城がいつ築城されたのかは確実な記録には一切登場していませんので不明です。しかし伝説では、“由原宮の大宮司賀来氏の居館跡である”とか、“大友氏が承久元年（1219）生石浦に上陸、九州賊徒を平定し、康元元年（1256）に金谷迫館を造った”とされています。発掘調査を経ていませんので、城の確実な使用年代は不明ですが、城の北側の鞍部（図ℓ～m付近）から16世紀代前半代（大友家20代義鑑または21代義鎮の頃）の白磁破片が採集されていますので、その頃使用されていた可能性が推定できます。

この城は、上野台地の推定大友氏居館“上原館”と、その詰め城である高崎城の中間地点にあり、相互を結ぶ道（“高崎城道”）が城の前面を通っていることから“繋ぎの城”であった可能性があります。



丸山城縄張図（1／2000）

資料館の活動から

歴史資料館と学校

当館では市民の生涯学習の場として、これまで様々な事業を展開してきました。こと教育普及事業に関しては、開館当初から力を入れています。10周年を迎え入館者数が減少しつつある現在、安定した利用者を確保している事業に「小・中学生の団体利用」があります。今回は、その実状と今後の問題について触れてみたいと思います。

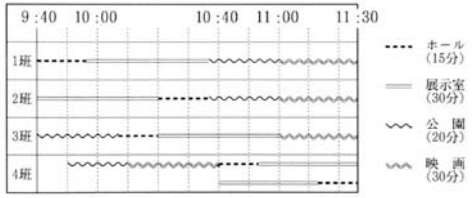
年間入館者の約35%を占める小・中学生の団体利用には、50人以内の班で60～90分　学校側の要請より展示解説、国分寺跡史跡案内、歴史・民俗関連の映画の上映等を行っています（資料１）。特に小学校3～4学年は「昔の道具」、５～６学年では「郷土の歴史」の学習を中心に対応しています。また、資料館での学習を効果的に行えるよう、各学年用のしおりを作成し、事前・事後学習に利用して貰っています。小学校の利用は遠足や社会見学等に付随したものが多いですが、歴史学習に的を絞って利用する学校も近年増加しています。一方、中学校の利用は遠足等で公園使用の際の自由見学が主で、展示解説の要請はほとんどありません。また、大分市の約70%の小学校が当館を利用しているのに対し、中学校は残念ながら10%足らずです（資料２）。

博物館と学校教育の関連については、平成2年に社会教育審議会の文部大臣に対する答申に「子供の時から学習活動の中に博物館の利用が位置づけられ、生涯にわたって、楽しい学習の場として博物館に親しむ素地を培っておくことが大切である」とあり、両者の関係の緊密化を強く示唆しています。これは年齢層をこえたリピーターの確保にも関連するとも言え、博物館側のあり方にも示唆的です。当館では、小学校については現在のスタンスを堅持しつつ、特に中学校による利用を拡大するため、今後計画的に工夫・改善の努力をしてゆく必要があると考えています。「魅力ある資料館」の実現に向けて学校教職員との情報交換の場の設置や、研修講座の開設、教員研修における博物館実習の導入、学校での巡回展や資料の貸出など、様々な方法が想定できます。無論、これらの事業の実現は、学校・教育委員会・資料館三者の共通理解のもと、アプローチしていかなければならない課題です。ともあれ、資料館に対する市民の期待が高まる現在、青少年層にも心に残る経験をぜひ提供したいものです。

資料１．資料館利用スケジュールの１例

M小学校・T小学校見学案内　1997・5

M小学校	T小学校
６年　135名	６年　69名
４クラス　３班	２クラス　１班(後半２班)
110分　見学	100分　見学
（１・２・３班）	（４班）



学校からの要望　郷土の歴史を概観することにより、歴史学習の興味関心を高めたい（長期の休み等に家族と見学させる足がかりとしたい）

資料２．

大分市内小・中学校利用状況　('97・4・1～'97・12・1)

		３年	６年	その他	計	備考
小学校	校数	7	30	9	46	＊計の内11校は２学年にまたがって利用
51校 29440人	人数	826	3439	1197	5462	＊他郡市８校 366人
		１年	２年	３年	計	
中学校	校数	3	0	0	3	
24校 16546人	人数	869	0	0	869	＊他郡市２校 183人